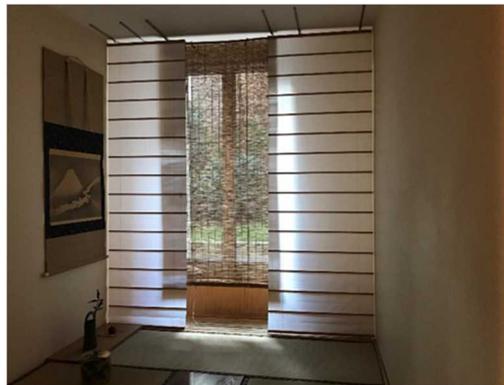


39 茶道の極意 (2021年3月12日)

先日、パリにあるジル・モクーさんの茶室を訪問しました。モクーさんは、通算13年に及ぶ日本滞在の間に茶道を始めとする日本の伝統文化と出会い、茶道の宗徧流（宗徧流正伝庵）の師範となられ、「宗輝」という名前をお持ちです。香道の志野流、弓道の本多流もたしなまれます。この茶室は、心を静める場所であり、モクー（Maucout）さんの苗字の発音が「黙」（Moku）に似ていることから「黙庵」と名付けられました。

黙庵に足を踏み入ると、まるで日本にいるかのような気持ちになりました。お香の香りが漂い、畳、庭に面した障子、簾、掛け軸、釜、水差し、香合などがあり、日本にある和室そのものだったからです。



茶道で客を招く際には、亭主は客の好みや季節に合ったテーマを選び、そのテーマに相応しい道具を用意します。そして客に抹茶を点てて、唯一無二の空間と時間を作ります。そこには、調和 (harmonie)、尊重 (respect) や共有 (partage) があります。これらは、茶道の極意と言えます。



お訪ねした日に用意されていた香合は、本物のみかんを乾燥させて作られたものです。外から見ると地味ですが、蓋を開けると、中は金箔がほどこされています。それは人間そのもので、外からは分からなくとも、人は誰しも内面には金のように高価で輝くものを持っていることを伝えたいとモクーさんはおっしゃいます。茶道とは、道具の選び方によっても、亭主の思いを伝えることができるのです。

## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

茶道は、フランス語で *cérémonie du thé* (英語の *tea ceremony*) と訳されま  
す。直訳すると「茶の儀式」ですが、茶道は単なる儀式ではありません。お点前  
には作法がありますが、作法を習得することだけが茶道の目的ではありません。

日本人でも、モクーさんのように日本の伝統文化が継承してきた精神性を理  
解している人はあまりいません。現代の日本人、特に若者は、かつての日本人が  
大切にしてきた精神性を通して、日本文化の特徴とも言える尊重や調和といっ  
た基本的な価値を学んでいかなければならないと、モクーさんから教えていた  
だきました。それは、もしかしたら茶道からも学べるのではないのでしょうか？